

| 学年 | | | | | | | | | | |
|--------------------------|--|--------------------------------------|---|---|---|----------|---|---|---------------------|--|
| 小学校 | | | | | | 中学校 | | | | |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 1 | 2 | 3 | | |
| 小笠原村立小笠原中学校 技術科3年 年間指導計画 | | | | | | | | | | |
| 月 | 単元名 | 情報モラル | | | | 系単元の | 小学校におけるコンピュータの基本的な操作や発達段階に応じた情報モラルの学習状況を踏まえ指導を行っていく。 | | | |
| 4 | 学習活動 | | | | | | 「わかる」から「できる」授業への工夫 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・[D 情報の技術] ・[(1) 生活や社会を支える情報の技術について調べる] ・著作権や発信した情報に対する責任を知り、情報モラルについて考える。 | | | | | | つまずきやすいポイント | <ul style="list-style-type: none"> ・著作権や肖像権についての知識や、情報モラルを理解し、情報を受信、発信できるようにする。 | | |
| | | | | | | | 工夫・手立て | <ul style="list-style-type: none"> ・普段使用しているSNSを題材に具体的な事例を考えながら、正しい知識を学習できるようにする。 | | |
| | 評価規準 | | | | | | | | | |
| 知識・技能 | | 著作権や情報モラルについて、正しい知識・理解をしている。 | | | | 思考・表現・判断 | 著作権や情報モラルについて、自分で考え、適切に利用することができる。 | | 主体的に学習に取り組み、主体的に学習に | |
| | | プリント・定期考査 | | | | | 発言・プリント | | 授業態度・プリント | |
| 月 | 単元名 | コンテンツの作成 | | | | 系単元の | 小学校総合「情報を収集・整理・発信したり、情報が社会に与える影響を考えたりするなどの学習」を踏まえながら表題の単元について考えていけるようにしていく。 | | | |
| 5 | 学習活動 | | | | | | 「わかる」から「できる」授業への工夫 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・[D 情報に関する技術] ・[(2) 生活や社会における問題を、ネットワークを利用した 双方向性のあるコンテンツのプログラミングによって解決する活動] ・問題を見だして課題を設定し、プレゼンテーションソフトを使用し、メディアを複合する方法とその効果的な利用方法等を構想して制作の過程や結果の評価、改善及び修正について考える。 | | | | | | つまずきやすいポイント | <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションソフトの使用法の理解。 ・効果的な、利用方法の工夫。 | | |
| | | | | | | | 工夫・手立て | <ul style="list-style-type: none"> ・動画を使用し、プレゼンテーションソフトの使用法を解説する。 ・効果的な利用方法を使用したコンテンツを提示する。 | | |
| | 評価規準 | | | | | | | | | |
| 知識・技能 | | プレゼンテーションソフトやメディアについて、正しい知識・理解をしている。 | | | | 思考・表現・判断 | プレゼンテーションソフトやメディアについて、自分で考え、適切に利用することができる。 | | 主体的に学習に取り組み、主体的に学習に | |
| | | プリント・定期考査・実習作業 | | | | | 発言・プリント・実習作業 | | 授業態度・プリント | |
| 月 | 単元名 | 情報科学 | | | | 系単元の | 小学校総合「情報を収集・整理・発信したり、情報が社会に与える影響を考えたりするなどの学習」を踏まえながら表題の単元について考えていけるようにしていく。 | | | |
| 6・7 | 学習活動 | | | | | | 「わかる」から「できる」授業への工夫 | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・[D 情報の技術] ・[(1) 生活や社会を支える情報の技術について調べる] ・[(4) これからの社会の発展と情報の技術の在り方を考える] ・情報の表現、記録、計算、通信の特性等の原理・法則と、情報のデジタル化や処理の自動化、システム化、情報セキュリティ等に関わる基礎的な技術の仕組みについて理解する。 ・生活や社会、環境との関わりを踏まえて、技術の概念を理解する。 ・技術を評価し、適切な選択と管理・運用の在り方や、新たな発想に基づく改良と応用について考える。 | | | | | | つまずきやすいポイント | <ul style="list-style-type: none"> ・高度な数学的要素を含む内容が多く、理解が難しい。 ・情報科学の抽象的な概念の理解が難しい。 | | |
| | | | | | | | 工夫・手立て | <ul style="list-style-type: none"> ・発展的な数学の知識を動画などを使用しながら平易に解説する。 ・抽象的な概念を、具体的な事例を用いて説明する。 | | |
| | 評価規準 | | | | | | | | | |
| 知識・技能 | | 情報科学について、正しい知識・理解をしている。 | | | | 思考・表現・判断 | 情報科学、今後の情報化社会について、自分で考え、適切に利用することができる。 | | 主体的に学習に取り組み、主体的に学習に | |
| | | プリント・定期考査 | | | | | 発言・プリント | | 授業態度・プリント | |

| 学年 | | | | | | | 小笠原村立小笠原中学校 技術科3年 年間指導計画 | | | |
|-----------------------------------|--|-----------------------------|---|---|---------|--|--|---|---------------|---------------------------|
| 小学校 | | | | | | 中学校 | | | | |
| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 1 | 2 | 3 | | |
| 月 | 単元名 | プログラミング思考 | | | | 系統元の | 小学校におけるコンピュータの基本的な操作や発達段階に応じた情報モラルの学習状況を踏まえ指導を行っていく。 | | | |
| 8 ・ 9 ・ 10 ・ 11 | 学習活動 | | | | | 「わかる」から「できる」授業への工夫 | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・[D 情報の技術] ・[(3) 生活や社会における問題を、計測・制御のプログラミングによって解決する活動] ・プログラミング思考の基礎となる数学的考え方(仕様設計、デバック方法を、経路計算、2進数などを題材に学ぶ。 ・ロボット制御のプログラムを使用し、入出力データの流れを設計することを学ぶ。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・必要とされるシステムを抽象化し、プログラムとして記述することが難しい。 | | | | |
| | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・かんたんなロボットの動作を組み合わせることで、抽象化の概念を習得できるようにする。 | | | | |
| | | | | | | 工夫・手立て | | | | |
| 評価規準 | | | | | | | | | | |
| 知識・技能 | | ・プログラム記述について、正しい知識・理解をしている。 | | | 思考・表現判断 | | ・必要とされる仕様に基づき、プログラムを書くことができる。 | | 主体的に学習に取り組む態度 | ・プログラムに興味関心をもち、授業に参加している。 |
| | | 実習作業・定期考査 | | | | | 実習作業 | | | 授業態度・プリント |
| 月 | 単元名 | プログラミング実習 | | | | 系統元の | 小学校におけるコンピュータの基本的な操作や発達段階に応じた情報モラルの学習状況を踏まえ指導を行っていく。 | | | |
| 12 ・ 1 ・ 2 ・ 3 | 学習活動 | | | | | 「わかる」から「できる」授業への工夫 | | | | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・[D 情報に関する技術] ・[(2) 生活や社会における問題を、ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによって解決する活動] ・表計算ソフトのマクロ機能を使用し、プログラミングを実習する。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・必要とされるシステムを抽象化し、プログラムとして記述することが難しい。 | | | | |
| | | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・マクロプログラムを記述することで、抽象化の概念を習得できるようにする。 ・動画解説を使用しながら、習熟度に合わせて指導する。 | | | | |
| | | | | | | 工夫・手立て | | | | |
| 評価規準 | | | | | | | | | | |
| 知識・技能 | | ・プログラム記述について、正しい知識・理解をしている。 | | | 思考・表現判断 | | ・必要とされる仕様に基づき、プログラムを書くことができる。 | | 主体的に学習に取り組む態度 | ・プログラムに興味関心をもち、授業に参加している。 |
| | | 実習作業・定期考査 | | | | | 実習作業 | | | 授業態度・プリント |